

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2291200059 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 十字の園 | | |
| 事業所名 | 御殿場十字の園 グループホーム笑みの里(富士山フロア) | | |
| 所在地 | 静岡県御殿場市北久原578-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年6月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年9月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和4年7月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり過ごしていただけるよう家庭的で温かい雰囲気づくりに配慮しています。また、コロナ禍であっても可能なかぎり地域へと足を運び近隣の方との交流や四季の移り変わりを肌で感じていただけるよう心がけています。
日々の生活においてもご利用者ひとりひとりの能力に着目し、可能なかぎりご自分でまたはご利用者同士互いに助け合いながら生活を送っていただけるよう、職員は過度な介入をせず、黒子のような存在であるという事を常に意識し支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「生きる喜び、生きる自由、生きる希望」を謳った理念は、運営の核として2014年の開設から今日に至るまで脈々と続いています。家族が立ち寄ったとき、利用者本人の伴侶を気にかけて「お父さんはお元気ですか」と声をかけたことが口火となり、「実は亡くなってこれから見送りの準備なんです、本人が調子を崩して(日頃からそういった傾向がある)事業所の皆さんを困らせてもいけないと思い…」との話につながり、「私たちがしっかり支えますからお別れをさせてあげてください」と事業所の使命と姿勢を伝え、無事葬儀に間に合いお別れできたとのエピソードからも、事業所が利用者とともに家族ファーストを推進していることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時に理念の復唱を行うことで、常に意識しながら業務に取り組むよう心がけている。また、定期的に行っている認知症等の内部研修の場においても理念と紐付けて自身の日頃の業務姿勢に関して振り返りをおこなっている。 | 理念はパンフレットにも刷り込み、地域の居宅介護支援事業所や見学の家族などにも知ってもらえるよう図っています。毎朝仕事始めに理念を唱和し、勉強会でも理念を裏付けに省みる時間を設けています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | コロナ禍という事もあり、地域の方との関わる機会は以前に比べ減っているが、中でも近隣を散歩する際は地域の方に積極的に挨拶等をおこなうよう努めている。 | 散歩でマスクをすることは利用者にも定着し、お互いマスクで表情は見えにくいものの、近所の皆さんとは挨拶を交わしています。美術品に近いパッチワークのタペストリーを定期的に交換訪問くださる人や、収穫した野菜が届く日もあります。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 市内のキャラバンメイトの懇談会へと定期的に参加しているが、感染予防のためボランティアや学生の受け入れは現在は行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染予防のため書面による報告の機会が多くなっているが、開催時には民生委員や地域包括、ご家族の方からのご意見を聞き、サービスに反映できるよう心がけている。 | 運営推進会議はコロナ禍のため書面開催が続いています(昨年11月は実施)。欲を言えば行事の様子などが見える化された記述があることを望みますが、現状の事故(転倒等)報告、コロナ対策について丁寧に記載されていて、充実しています。 | メンバーに2ヶ月分の運営状況を配付する際、返信シートを同封することを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 書類等は直接役場へと持参し、その場で担当職員と情報交換を行うなど顔の見える関係を築くよう心がけているとともに、キャラバンメイトや見守りサービスへの参加もしている。 | コロナ禍であっても行政窓口は出入りを許されているため、直接出向いています。また、法人が地域包括支援センターを行政から受託していることから、気軽に何でも相談でき、結果利用者本人や家族の役に立つことに実っています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的開催している身体拘束適正化検討委員会の場で禁止行為や不適切なケアについて学ぶ機会を設けるとともに、毎月の職員会議の場においても認知症ケアと紐づけて研修を行い、個人の尊厳保持に努めている。 | 国の通達では委員会開催を3ヶ月毎に実施することとともに、既存職員の年2回の研修と新入職員研修を位置づけていますが、当事業所では委員会では研修内容を実施していて、しかも内容に厚みがあり、十分な知識研鑽を図っています。 | 知識取得の時間を沢山設けていて頼もしい限りですが、「年2回以上研修をおこなう」こと他に委員会設置があるため、委員会では事例検討や予見からの先取りのな協議など、「知」より「考」があることを期待します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修等を通じて、虐待に対する理解を学び、日々の業務の中でも常に意識するよう心がけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けている。また、実際に成年後見制度をご利用されている方がいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 特に生活を送るうえで起こり得るリスクに関しては丁寧に説明し、ご本人・ご家族の了承を得た後に契約の手続きを行っている。また、ご家族やご本人の心配事に寄り添った対応を心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に苦情箱を設置するとともに、ご家族が来園された際は日頃のご様子をお伝えするとともに積極的にコミュニケーションをとるように心がけている。 | 管理者(主任)とユニットリーダーとの夜勤日が重ならないように配慮し、どちらかが日中居るように工夫することで、消耗品の補充などで立ち寄ってくださる家族の傾聴とフォローを実現させていて、家族アンケートにも感謝の言葉が踊っています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務中に出た気づきや改善点について、その場で管理者等に提案しながら運営に生かしていく。また、定期的開催される職員会議で運営に関する提案、話し合いを行い、運営に生かしている。 | 法人内での異動が間々あります。オペレーションは似ていてもリズムが異なることもあって戸惑う職員もいますが、管理者も相談にのるほか、職員同士でのフォローもあって、職員間のコミュニケーションは円滑です。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況に関しては時間外労働などが増えないように勤怠管理や人員配置に配慮している。また、給与等に関しては人事評価制度を導入し頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めている。また、個人の力量を見ながら必要な研修を受講させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の言動をよく観察するとともに、積極的に言葉がけを行い信頼関係が作れるよう努めている。また、入所後もご家族の協力も得ながらご本人が安心して生活を送れるよう配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | インテークの段階からご家族の思いに耳を傾けるとともにサービス導入後もご利用者のご様子等をこまめにお伝えすることで、ご家族に安心していただけるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | インテークの段階でしっかりと情報収集を行い、ご家族・ご利用者が抱えている課題を明確化し、必要な支援を行えるよう準備している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常にご利用者主体の生活であることを意識し、ご自分で行うことは行っていただき、ご利用者自らが気づき動けるような環境づくりを意識している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍ということもあり、以前のような関りは難しくなっているが、そのような状況下でも可能な限りご家族の協力を得ながらご本人が安心して生活を送ることができるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で外部との交流が難しい中、Zoomを活用したりリモート面会等を活用して馴染みの方との交流の機会を設けられるよう努めている。 | 面会はりモット対応とし、会いたい人の顔が見えるよう支援しています。また「節分には豆まきと恵方巻き」をはじめ「ひな祭りのちらし寿司」など、これまでの暮らしで続けてきた年中行事がつつがなくできることへの工夫も十分です。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 時にはご利用者同士で口論となってしまうことがあるが、人間関係の一環として捉えつつも職員が上手く間に入ることで、互いに協力しながら日々の生活を送れるような環境づくりを意識している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 同法人の特養へ移行された方に関しては施設相談員を通じ情報交換を行うとともに、ご家族に対しても可能なかぎりフォローを行うよう努めている。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の言動や表情をよく観察し些細な変化にも気付けるように努めているとともに、ご利用者から気兼ねなく話しかけてもらえるような関係を築けるよう日頃より心がけている。 | 「当初のアセスメント整備」「日常の会話からの聞き取り把握」「(コロナで以前より落ちているものの)アクティブなメリハリのある活動」が堅固な基盤としてあり、以前の趣味や本人のやりたい事が継続できている人もいます。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や関係事業所から情報収集を行い、その人らしい生活が送れるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご利用者の些細な変化にも気が付けるよう、日頃よりひとりひとりの生活の様子を注意深く観察し、変化が見られた場合には職員間で情報共有を行うとともに必要な支援が行えるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン作成前に聴取したご利用者、ご家族からの意向を反映できるよう心がけるとともに、毎月の職員会議でご利用者個々の現状を話合う機会を設けその都度、最適な支援が行えるよう努めている。 | 法人内の異動などで職員の入れ替えはあるものの、各ユニットの介護計画作成とともに職員一人ひとりが概ね本件について習熟のうえ、毎月の協議が叶っています。また計画の家族欄には直筆で思いが記載されている点もチーム感が滲んでいて、安心です。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に日々の生活の様子を記録するとともに、気づきや特記事項は職員間で共有化を図り、その都度、適切な支援が行えるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 可能なかぎりご利用者のご要望に応えられるよう職員間で連携をとり柔軟に対応できるよう心がけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍のため買い物や地域行事には参加できていない。(近隣を散歩した際に挨拶程度) | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的な訪問診療以外にも、入所前より通われているかかりつけ医へ受診の希望があれば引き続き受診できるよう配慮している。 | 協力医と従来のかかりつけ医、どちらを選んでも事業所で医療連携を可能としています。食事も1週間21食の内、冷凍食品はメンチカツの1品のみで、時節の野菜を豊富に活用しており、排泄状況とともに観察記録があることが健康に実っていることが視えます。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体施設の看護師と日頃より連携を密にするとともに、受診が必要な場合などは協力病院先の看護師へ連絡しスムーズに受診ができるよう配慮している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先のMSWや看護師と連絡をとりながら可能なかぎり早期で退院できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 母体施設が特養ということもあり、積極的にはターミナルケアは行っていない。ご利用者に重度化の兆候が見られた際にはその都度、ご家族に状況説明を行うとともに、特養への移行等を視野に入れながら今後の対応に関してご家族と話し合いの場を設けている。契約時にも同様の説明を行っている。 | 重度化にあたっては医師と家族の意見を仰ぎ、今後どのように本人に関わっていくのかを協議してしています。近くには同法人の特別養護老人ホームもあり、家族とも重度化による移設について契約時に合意形成できていますが、介護度3になると自ら移設を希望する家族もあります。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に内部研修を行うことで、急変時や事故発生時の対応を確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、防災訓練を実施し、昼夜ともにご利用者の安全確保に努めている。 | 年2回の法定訓練ではスモークなどメニューも吟味するほか、未だ経験していない人をシフト調整のうえ選択して、体験を積んでもらっています。また管理者の趣味であるキャンプのスキルが災害時の対応に生きる点もあり、今後の前進が期待されます。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」という法人理念の基、ご利用者ひとりひとりに敬意を払い、丁寧な言葉かけを行うよう努めている。 | ちゃん付けや後方から声をかけるといった基礎的なことは確実にクリアしています。認知症や拘束排除等の内部研修では理念と通ずることが多くあり、その都度考え方やケアサービスの姿勢について振り返っていて、総じて職員は朗らかで親切です。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の表情やちょっとした会話の中から本人の思いを汲み取れるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはあるものの無理強いせず、ご利用者ひとりひとりのペースや思いを尊重し、のんびり過ごしていただけるよう配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時の整容には十分に配慮するとともに、衣類のみだれや汚れが目立つときはその都度対応するよう心がけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備から片付けまで可能なかぎりご利用者同士が協力し合って行うことのできるよう努めている。また、その季節にあった食のイベント等を行うことで、普段とは違った雰囲気を楽しんでいただけるよう配慮している。 | これまで身体になじんでいる人だけでなく、男性も手伝うなど、兄弟姉妹のように食事の準備と片付けが展開する様子は、もはや当事業所のでっぱんの自己実現、有用感の高まる場面であり、利用者の日々の活力です。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量を個々に記録するとともに、水分摂取が少ない方にはゼリーを提供したり、咀嚼・嚥下機能の低下がみられる方にはできるかぎりその方に適した食事形態で召し上がっていただけるよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施するとともに、週1回訪問歯科診療を実施し、義歯の調整や歯科医師、歯科衛生士から必要な助言を得ている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、トイレのサインを見逃さないよう努めている。また、パット等もご本人にあった物を使用していただくよう、日頃より職員間で情報共有を行っている。 | 要介護1と2を併せて11名と壮健で、自分でできる人が半数程いますが、職員の後確認などは必要です。またパットなども取り替え頻度やかぶれなど不都合な点はないかを注視し、担当職員と管理者で決めかねる場合は会議の場に投げかけて皆で検討しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分・食物繊維の摂取に気を配るとともに、適度な運動を行うことで可能なかぎり自然排便が催せるよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3日の入浴を目安とし、ご利用者のその時の気持ちを尊重し、無理強いはずずに柔軟な対応が行えるよう配慮している。 | 法定では週2日以上ですが、プラスワンの週3日とするとともに、夏の汗や汚染などには速やかに対応して「気持ちが変わらないよう」支援しています。また拒否には日や時間、職員を変えるなどして「(本人が納得するのを)待つ」ようにしています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後に昼寝の時間を設け、居室やソファで休んで頂いている。その他にもご利用者の体調面にも十分に配慮し、負担のかからないよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容に変更が見られた際は職員間に周知するとともに、服薬後数日間は、特に注意しながら様子観察を行うとともに悪影響が見られた際は速やかに看護師・主治医と連携をとるよう心がけている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方の生活歴をよく理解して、その方に合った役割を担っていただけるような支援を心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染予防のため外出の機会は限られてしまいが、日々の散歩であったり、春の花見外出など可能なかぎり肌で四季の移り変わりを感じていただけるような支援を心がけている。 | 4月にはイチゴ狩り、富士霊園や山久荘の花見へと足を延し、コロナの乱高下の隙間をぬって外出も叶っています。5月には柏餅風のおはぎを作ったりなど、外出は減っても季節の話材やおいしさに触れる機会を設けています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 感染予防のため現在は買い物支援は行っていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご利用者からの要望を受け、ご家族へと電話を行ったり、毎年、年賀状をご利用者自ら書いていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの明かりやテレビ等の音が不快なものにならないよう常に環境整備に意識している。また、雛人形や鯉のぼりなど季節感のある飾り物を飾るようにしている。 | 室内は足元にものを置かないといった環境整備がみられます。また天気がいいと外で体操して暫く外気浴する日もありますが、そんなとき利用者が自ら植えた季節の花が目を楽しませてくれ、「まだつぼみだね」といった話材にも成っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | セミパブリックスペースとして1階、2階にそれぞれソファを設置し、気の合うご利用者同士が談笑できるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所後も安心して生活を送っていただけるよう家具やアルバムなどご本人にとって馴染みの品はできる限り沢山ご用意していただくようご家族に依頼している。 | 県内では唯一かと思われるメゾネットの2ユニットで、リビングが1階、自室フロアが2階にあり、2階には休憩できるソファセットも配置され、広い空間を清清使えています。また毎日階段の上り下りをする事で、知らず知らず足腰も鍛えられています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーなつくりとなっており、床もクッション性のある物を採用することによって安心して生活を送っていただけるよう配慮している。また、居室入口にはあえてご利用者の氏名はつけずご利用者自らが考える力を維持していただくよう配慮している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2291200059 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 十字の園 | | |
| 事業所名 | 御殿場十字の園 グループホーム笑みの里(羽衣フロア) | | |
| 所在地 | 静岡県御殿場市北久原578-3 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年6月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年9月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和4年7月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり過ごしていただけるよう家庭的で温かい雰囲気づくりに配慮しています。また、コロナ禍であっても可能なかぎり地域へと足を運び近隣の方との交流や四季の移り変わりを肌で感じていただけるよう心がけています。
日々の生活においてもご利用者ひとりひとりの能力に着目し、可能なかぎりご自分でまたはご利用者同士互いに助け合いながら生活を送っていただけるよう、職員は過度な介入をせず、黒子のような存在であるという事を常に意識し支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「生きる喜び、生きる自由、生きる希望」を謳った理念は、運営の核として2014年の開設から今日に至るまで脈々と続いています。家族が立ち寄ったとき、利用者本人の伴侶を気にかけて「お父さんはお元気ですか」と声をかけたことが口火となり、「実は亡くなってこれから見送りの準備なんです、本人が調子を崩す(日頃からそういった傾向があるため)して事業所の皆さんを困らせてもいけないと思い…」との話につながり、「私たちがしっかり支えますからお別れをさせてあげてください」と事業所の使命と姿勢を伝え、無事葬儀に間に合いお別れできたとのエピソードからも、事業所が利用者とともに家族ファーストを推進していることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時に理念の復唱を行うことで、常に意識しながら業務に取り組むよう心がけている。また、定期的に行っている認知症等の内部研修の場においても理念と紐付けて自身の日頃の業務姿勢に関して振り返りの場を設けている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | コロナ禍という事もあり、地域の方との関わる機会は以前に比べ減っているが、中でも近隣を散歩する際は地域の方に積極的に挨拶等をおこなうよう努めている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 市内のキャラバンメイトの懇談会へと定期的に参加しているが、感染予防のためボランティアや学生の受け入れは現在は行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 感染予防のため書面による報告の機会が多くなっているが、開催時には民生委員や地域包括、ご家族の方からのご意見を聞き、サービスに反映できるよう心がけている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 書類等は直接役場へと持参し、その場で担当職員と情報交換を行うなど顔の見える関係を築くよう心がけているとともに、キャラバンメイトや見守りサービスへの参加もしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的開催している身体拘束適正化検討委員会の場で禁止行為や不適切なケアについて学ぶ機会を設けるとともに、毎月の職員会議の場においても認知症ケアと紐づけて勉強会を行い、個人の尊厳保持に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修等を通じて、虐待に対する理解を学び、日々の業務の中でも常に意識するよう心がけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けている。また、実際に成年後見制度をご利用されている方がいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 特に生活を送るうえで起こり得るリスクに関しては丁寧に説明し、ご本人・ご家族の了承を得た後に契約の手続きを行っている。また、ご家族やご本人の心配事に寄り添った対応を心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に苦情箱を設置するとともに、ご家族が来園された際は日頃のご様子をお伝えするとともに積極的にコミュニケーションをとるように心がけている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 業務中に出た気づきや改善点について、その場で管理者等に提案しながら運営に生かしていく。また、定期的開催される職員会議で運営に関する提案、話し合いを行い、運営に生かしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況に関しては時間外労働などが増えないように勤怠管理や人員配置に配慮している。また、給与等に関しては人事評価制度を導入し頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めている。また、個人の力量を見ながら必要な研修を受講させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の言動をよく観察するとともに、積極的に言葉がけを行い信頼関係が作れるよう努めている。また、入所後もご家族の協力も得ながらご本人が安心して生活を送れるよう配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | インテークの段階からご家族の思いに耳を傾けるとともにサービス導入後もご利用者のご様子等をこまめにお伝えすることで、ご家族に安心していただけるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | インテークの段階でしっかりと情報収集を行い、ご家族・ご利用者が抱えている課題を明確化し、必要な支援を行えるよう準備している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常にご利用者主体の生活であることを意識し、ご自分で行うことは行っていただき、ご利用者自らが気づき動けるような環境づくりを意識している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍ということもあり、以前のような関りは難しくなっているが、そのような状況下でも可能な限りご家族の協力を得ながらご本人が安心して生活を送ることができるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で外部との交流が難しい中、Zoomを活用したりリモート面会等を活用して馴染みの方との交流の機会を設けられるよう努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 時にはご利用者同士で口論となってしまうことがあるが、人間関係の一環として捉えつつも職員が上手く間に入ることで、互いに協力しながら日々の生活を送れるような環境づくりを意識している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 同法人の特養へ移行された方に関しては施設相談員を通じ情報交換を行うとともに、ご家族に対しても可能なかぎりフォローを行うよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の言動や表情をよく観察し些細な変化にも気付けるように努めているとともに、ご利用者から気兼ねなく話しかけてもらえるような関係性を築けるよう日頃より心がけている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や関係事業所から情報収集を行い、その人らしい生活が送れるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご利用者の些細な変化にも気が付けるよう、日頃よりひとりひとりの生活の様子を注意深く観察し、変化が見られた場合には職員間で情報共有を行うとともに必要な支援が行えるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプラン作成前に聴取したご利用者、ご家族からの意向を反映できるよう心がけるとともに、毎月の職員会議でご利用者個々の現状を話合う機会を設けその都度、最適な支援が行えるよう努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に日々の生活の様子を記録するとともに、気づきや特記事項は職員間で共有化を図り、その都度、適切な支援が行えるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 可能なかぎりご利用者のご要望に応えられるよう職員間で連携をとり柔軟に対応できるよう心がけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍のため買い物や地域行事には参加できていない。(近隣を散歩した際に挨拶程度) | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期の訪問診療以外にも、入所前より通われているかかりつけ医へ受診の希望があれば引き続き受診できるよう配慮している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 母体施設の看護師と日頃より連携を密にするとともに、受診が必要な場合などは協力病院先の看護師へ連絡しスムーズに受診ができるよう配慮している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先のMSWや看護師と連絡をとりながら可能なかぎり早期で退院できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 母体施設が特養ということもあり、積極的にはターミナルケアは行っていない。ご利用者に重度化の兆候が見られた際はその都度、ご家族に状況説明を行うとともに、特養への移行等を視野に入れながら今後の対応に関してご家族と話し合いの場を設けている。契約時にも同様の説明を行っている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に内部研修を行うことで、急変時や事故発生時の対応を確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、防災訓練を実施し、昼夜ともにご利用者の安全確保に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」という法人理念の基、ご利用者ひとりひとりに敬意を払い、丁寧な言葉かけを行うよう努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者の表情やちょっとした会話の中から本人の思いを汲み取れるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはあるものの無理強いはず、ご利用者ひとりひとりのペースや思いを尊重し、のんびり過ごしていただけるよう配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時の整容には十分に配慮するとともに、衣類のみだれや汚れが目立つときはその都度対応するよう心がけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備から片付けまで可能なかぎりご利用者同士が協力し合って行うことのできるよう努めている。また、その季節にあった食のイベント等を行うことで、普段とは違った雰囲気を楽しんでいただけるよう配慮している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量を個々に記録するとともに、水分摂取が少ない方にはゼリーを提供したり、咀嚼・嚥下機能の低下がみられる方にはできるかぎりその方に適した食事形態で召し上がっていただけるよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施するとともに、週1回訪問歯科診療を実施し、義歯の調整や歯科医師、歯科衛生士から必要な助言を得ている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとりひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、トイレのサインを見逃さないよう努めている。また、パット等もご本人にあった物を使用していただくよう、日頃より職員間で情報共有を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分・食物繊維の摂取に気を配るとともに、適度な運動を行うことで可能なかぎり自然排便が催せるよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3日の入浴を目安とし、ご利用者のその時の気持ちを尊重し、無理強いはずらずに柔軟な対応が行えるよう配慮している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後に昼寝の時間を設け、居室やソファで休んで頂いている。その他にもご利用者の体調面にも十分に配慮し、負担のかからないよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容に変更が見られた際は職員間に周知するとともに、服薬後数日間、特に注意しながら様子観察を行うとともに悪影響が見られた際は速やかに看護師・主治医と連携をとるよう心がけている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方の生活歴をよく理解して、その方に合った役割を担っていただけるような支援を心がけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染予防のため外出の機会は限られてしまいが、日々の散歩であったり、春の花見外出など可能なかぎり肌で四季の移り変わりを感じていただけるような支援を心がけている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 感染予防のため現在は買い物支援は行っていません。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご利用者からの要望を受け、ご家族へと電話を行ったり、毎年、年賀状をご利用者自ら書いていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの明かりやテレビ等の音が不快なものとならないよう常に環境整備に意識している。また、雛人形や鯉のぼりなど季節感のある飾り物を飾るようにしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | セミパブリックスペースとして1階、2階にそれぞれソファを設置し、気の合うご利用者同士が談笑できるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所後も安心して生活を送っていただけるよう家具やアルバムなどご本人にとって馴染みの品はできる限り沢山ご用意していただくようご家族に依頼している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内はバリアフリーなつくりとなっているとともに、床もクッション性のある物を採用することによって安心して生活を送っていただけるよう配慮している。また、居室入口にはあえてご利用者の氏名はつけずご利用者自らが考える力を維持していただくよう配慮している。 | | |